

「ほっぴ すてっぴ キャンプ」

平成 30 年 1 月 6 日（土）～1 月 8 日（月） 2 泊 3 日

○目的

子供たちが、日常の中では体験しがたい活動にチャレンジするとともに、集団宿泊生活を通じて、規則正しい生活習慣の大切さや相互に協力し合うことの意義などを学ぶ「子供たちが将来に向けて踏み出す一歩」を応援するキャンプを実施する。

○参加者

近隣の児童養護施設の幼児、児童、生徒 計 27 名

○事業の内容

（1）「アイスブレイク」・「新年の目標作り」

中央交流の家職員

キャンプを始めるにあたって、参加者全体の緊張感をほぐすとともに、これから始まるさまざまなチャレンジへの気持ちを高めた。また、新年の目標を自分の手形とともに旗に書き、今年チャレンジしていきたいことについて全員で共有をした。



（2）「フードハンティングラリー」・「野外炊事」

中央交流の家職員・児童養護施設職員

グループごとに協力し合い課題をクリアすることを目的に、外に隠された食材カード探しに挑戦した。ラリー中は上級生がリードし、下級生とも協力してカードを探す姿が見られた。野外炊事では、火はいつつけるのか、食材は何から準備するのかなどについて話し合いながら、自分に出来ることを探して取り組むことが出来た。



（3）「雪遊び体験（スキー・スノーボード・ソリ）」

イエティインストラクター

雪遊び体験では、初めてのスキーやスノーボードにチャレンジした。午前中は何度も転び諦めそうになっていた姿も見られたが、午後は技術が上達し、時間を忘れてスキーやスノーボードを楽しんでいた。帰りの際にはインストラクターへしっかりと挨拶をし、また来たいと笑顔で話していた姿が印象的であった。幼児はソリ遊びを見守る施設職員や交流の家スタッフと共に楽しんだ。



(4)「星空教室」

中央交流の家職員

今日見える星座と惑星について中央交流の家職員のレクチャーを受けた。星座にまつわるギリシャ神話の話の際には、興味深く聞いていた姿が印象的であった。高校生たちが幼児の面倒を見ながら、全員が最後まで星座の話聞くことが出来た。



(5)「スポーツ・レク大会」

中央交流の家職員

スポーツ要素の多いレクリエーション活動を、幼児から高校生まで幅広い年齢層で行った。グループは縦割りで編成し、普段あまり活動を一緒にしないメンバーと協力して各種目に取り組んだ。新聞紙を用いた競技性のある種目では、各グループ高校生や中学生がリーダーシップを発揮し、幼児も楽しめるよう声掛けをする姿や創意工夫をする姿が見られた。



(6)「早寝・早起き・朝ごはんを通しての生活習慣の見直し」

中央交流の家職員・児童養護施設職員

キャンプ中は、朝6時起床、7時朝食、夜21時就寝の生活をし早寝・早起き・朝ごはんの実践を行った。「自分のことは自分でする」をキーワードに掃除や片付けを行うなど、キャンプを通して生活習慣を見直すきっかけとした。



(7)「キャンプのまとめ」

中央交流の家職員

個人でキャンプを振り返り、ワークシートを記入した後、「これからチャレンジしたいこと」について考え、みんなの前で発表した。

《参加者の感想》

- このキャンプではみんなと協力すること、自分のことは自分でやること、チャレンジすることを育てられたので、学校やこれからの生活に役立てていきたい。
- 火起こしや小さい子とふれあうことは、普段はあまりないので良い経験になった。
- キャンプでたくさんチャレンジしたので、諦めていたテニスの大会ベスト16をこれから目指してチャレンジしていきたい。

《成果と課題》

- 「チャレンジできるようになる」「自分のことは自分でできるようになる」というキャンプの目標に対して、キャンプを通して意識し、帰ってからの目標へ繋げることが出来た。
- 普段、関わりの少ないメンバーと協力することや、異年齢との関わりで互いを思いやることの大切さに気づき実践することが出来た。
- 参加者の高校生が企画するプログラムを途中で断念し、交流の家職員主導のプログラムへ変更となった。企画の素案や高校生の役割などを具体的に提供し、企画のハードルを下げるといった事前の働きかけを交流の家職員からする必要があった。